

JCF MTB ジャパンシリーズ富士見パノラマ大会（春） レースレポート

MIYATA-MERIDA BIKING TEAM 齊藤 亮

大会名：JCF MTB ジャパンシリーズ富士見パノラマ大会（春）

期日：2013年6月2日（日）

会場：JCF 公認 XC コース

天気：曇

気温：24℃

競技種目：男子エリート 4.0km×6周回

出場者数：82名

結果：**優勝**



.....

Jシリーズ3戦目の舞台は富士見パノラマスキー場。前戦から2週間開けての今レースは、気力体力共に回復させるには十分な期間があった。今までのレースを振り返り、反省や課題を克服するためにもう1度トレーニング内容を見直し実行した。そして今回バイクも29erから26インチにスイッチし、自分の理想とするポジションが出せた。29erから26インチにスイッチした大きな理由は今現在でもポジションが自分の中でしっくりきていないから。今までの固定観念や乗り方を1度リセットする意味でも26インチバイクの投入に踏み切った。

走り慣れた富士見パノラマのコースは決してテクニカルではないが、登り基調で非常にタフなコース。今回新たに立体交差が設置され、富士見の名物とも言えるゲレンデの直登区間は逆走となる。梅雨入りし不安定な天気ではあるが天気予報を見る限り雨の心配はなさそう。前日のコース試走では完全ドライコンディションとなっており非常に走りやすい。ゆっくりとラインを見極め、レース展開をイメージしながら勝負所を探る。木の根っこ、岩や石などの位置を何度も確認しながら最速のラインを選ぶ。雨の心配はなさそうなのでタイヤ選択にも悩むこ



とはなく、自分のお気に入りでもある IRC/MYTHOS XC TUBELESS (26×2.1) をチョイス。ケミカルはお馴染みのホルメンコールでナノコーティング。今回もチームスタッフとサプライヤーさんの強力なサポート体制でレースに挑むことができ精神的に心強かった。昨シーズンは全日本選手権大会、ジャパンシリーズ春・秋と3度も戦った富士見パノラマ大会での思い出が脳裏に焼き付いている。ここでの経験と失敗、悔しさ、怒り、喜び、、全てが今の自分の糧となっている。今レースは勝つことだけが全てとせず、今の自分の力を出し切ることを強く意識してスタートラインに立った。



男子エリートのスタートは13時20分。最前列に並び号砲の瞬間を待つ。この雰囲気と緊張感はやはり非日常の世界。そしてこの緊張感を感じないとベストパフォーマンスが生まれることはない。号砲一発、落ち着いてスタート。スタートダッシュに成功したものの、若手有望株である2名の選手はやはりスタートダッシュが速い……。一気に乳酸を出し過ぎないように心掛け、最初のシングルトラックを4番手で進入。序盤からかなりのハイペースでレースが展開されていく。乳酸をうまく処理しながら乱れた呼吸を整える。今回優勝争いをするであろうと思っていた小野寺選手(SPECIALIZED)が1周目前半にチェーン切れで先頭集団から脱落。その瞬間を目の当たりにし、自分も残念に思えて仕方なかった。1周目中盤からは自分が出頭に出て積極的にペースを上げていく。後続は消極的なのか着いてくる気配はなく、前半からまとまったパックにならず単体でレースが進むカタチとなった。2周目以降はラップタイムを計り、緩急を付けた走りでリズムを作る。後続とのタイム差はある程度ついたのは確認出来たが、ラップタイムを落とさないように集中して周回を重ねる。自分の前を走る見えないライバル……。妥協したら全てが台無し。最終ラップにベストラップを叩きだそうと果敢に攻めた。乳酸で脚が熱い。呼吸が乱れて苦しい。自分の限界を自分で決めないようにプッシュし続けた。しかしフラフラになった身体をうまくコントロール出来ず最後の下りで転倒……。コーステープがクランクに絡まり大きくタイムロス。幸いバイクには影響はなくすぐにリスタート。ここで若干集中力を切らしてしまい最後の登りは我慢の走りに。最終ラップでベストタイムを叩き出すことは出来なかったが、2位の選手に3分36秒差を付けて優勝することが出来た。



追い込んでいるときの冷静な判断やラインミスなど、細かい部分はまだまだ未熟。それも含め

色々な課題と弱点が浮き彫りとなった。開幕戦から 3 連勝することが出来、個人としてもチームとしても良い流れで結果を残すことが出来ている。そして、多くのサプライヤーやスポンサーに支えられてレース活動ができていることを心から感謝すると共に、一番好きなことを全力で取り組める環境を整えてくれている家族には本当に感謝したいと思う。

気持ちを新たに“次”の目標に向けて頑張っていきます。たくさんの応援、サポート本当にありがとうございました。次戦も熱い走りができるよう一生懸命頑張りますので応援よろしくお願いします。

【レース結果】

1. 齊藤 亮 長野県/MIYATA-MERIDA BIKIG TEAM
2. 門田基志 愛媛県/TEAM GIANT
3. 中原義貴 大阪府/Cannondale
4. 前田公平 長野県/TEAM SCOTT
5. 千田尚孝 愛知県/自転車村 R ワールドチーム
6. 山田 主 長野県/club grow

【使用機材】

バイク：MERIDA / O.NINE CARBON TEAM-D

フロントフォーク：DT-SWISS / XMM100 TS
REMOTE TAPER

クランクセット：SRAM / XX1

サドル：SELLE ITALIA SLR XC

タイヤ：IRC / MYTHOS XC TUBELESS (26×
2.1)

シューズ：NORTHWAVE / エクストリームテック
MTB S.B.S

ヘルメット：KOOFU/WG-1

サングラス：adidas eye wear / evil eye halfrim
pro / クリスタル S グラデーション

ケミカル：HOLMENKOL

チェーン：ルーベエクストリーム、ルーベ
ンスピード

スプロケット、チェーン：ダートプロテ
クター

フレーム：スポーツポリッシュ、アクア
スピード、ダートプロテクター
ウェア、シューズ：ハイテクプルーフ、



テクスタイルウォッシュ

サングラス：ノーフォグ



斉藤選手のケミカルレポート

MTB の聖地富士見。独特の土質がバイクに容赦なく襲いかかります。WET なら土壌がツルツルに変化しグリップを失う。DRY なら乾燥した細かい赤土が潤滑性能を奪っていく。軽さや滑らかさと持久性能のバランスが大切です。今回チェーンはルーベエストリームとルーベンスピードでコーティングしました。フレームを含めレース後のバイクはホント綺麗な状態のままでしたね！

もちろん大量の汗を掻いた状態でもサングラスは最後まで掛けていられましたし。トップチューブに付く汗やボトルのドリンク痕なども目立たなく、綺麗な状態でした。自分の走りと同じように、ホルメンコールのケミカルには可能性をまだまだ感じます。サポートライダーとして、テストライダーとして、今後もいろいろなパターンを探り、情報発信していきます。



メーター：POLAR / RS800CX BIKE

エネルギージェル：shotz ENERGY GEL

ドリンク：Electrolyte shotz

レースウェア：WAVE ONE

レースソックス：deuter

レースグローブ：KABUTO / PRG-3

アンダーウェア：CRAFT

インソール：SUPER feet / Black

アパレルウェア：Columbia

テーピング：New-HALE

ネックレス：erg